

# < 実践事例 世田谷区立八幡山小学校 >

ボランティアアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

環境

## 1. 取組・活動名

「パラリンピック特別授業 ～パラリンピアンがやってくる～」

## 2. 取組・活動のねらい

- パラリンピック競技大会に出場し、メダルを獲得するに至るまでの経緯や経験談を伺う中で、何事も諦めずに努力を続けることの大切さを知る。
- パラリンピアンの実演や共演を通して、スポーツの魅力や楽しさを実感し、自らすすんで運動に親しもうとする意識を高める。
- パラリンピアンとの交流から、障害や障害者スポーツについて理解を深め、障害者に対する心のバリアフリーを醸成する。

## 3. 教育課程上の教科名・時数

「特別活動・2時間」

## 4. 実施上の工夫

- ・授業実施1ヶ月前から、オリンピックが活躍している写真をパネルに貼って校内に掲示し、オリンピックへの興味・関心を高めていく。
- ・本校の運動会で使用している聖火台を活用し、パラリンピックの雰囲気演出する。
- ・全校児童の前で、各学年代表児童とパラリンピアンが50mを共に走り、パラアスリートの身体能力の高さを実感させる。
- ・パラリンピアンへの講演や交流を通して、パラリンピック競技のルールや用具などの違い、競技を楽しむためのさまざまな創意工夫について、理解を深めていく。

## 5. 本取組・活動の内容



### 「パラリンピアンへの講演」

- ・体育館の舞台に聖火台を設置して、パラリンピックの会場の雰囲気を演出し、パラリンピアンを迎えた。
- ・「万事全力」というテーマで、自分の障害についても触れ、陸上競技との出会いや、どんな時でも諦めない気持ちで取り組むことの大切さについて講演していただいた。



### 「代表児童との50m走の共演」

- ・全校児童が見守る中、各学年代表児童と共に走り、パラリンピアンが児童より10m後方からスタートしたが、颯爽と抜き去りゴールする姿を見た児童から、大きな歓声が上がった。
- ・共に走った児童から「あともう少しだったのに。」と悔しがる姿や「フォームがきれいだった。」との声があがり、アスリートのすごさを実感していた。



### 「パラリンピアンとの交流」

- ・授業終了後、パラリンピアンは児童一人一人とお別れの握手をした。人との出会いを大切に人柄に触れることができた。
- ・獲得された本物の銅メダルに触れ、その重みを体感することができた。
- ・メダルには、音が鳴る仕組みが施されており、バリアフリーの考え方にも触れられた。

## 6. 成果

- ・パラリンピアンが、「『障害があるから』と否定的な考えにはならなかった」という講演の中での言葉は、児童の障害者理解への考えをより深めることができた。
- ・パラリンピアンへの経験談から、栄光の陰には必ず人一倍の努力があることを知り、様々な競技で活躍を続ける選手を応援しようという気持ちが芽生えた。
- ・何事にも全力で取り組むことが大切であるという「万事全力」というメッセージは、児童の学校生活に活かしていくことができた。
- ・実際にパラリンピアンと児童の共演が実現したことで、パラアスリートの身体能力の高さを実感し、スポーツの魅力や身体を動かすことの楽しさを再確認できた。
- ・本物のメダルに触れてオリンピック・パラリンピック競技大会を身近に感じる事ができた。また、オリンピックとパラリンピックの競技の違いを知ることによって、障害者スポーツへの理解を深め、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への気運の醸成につながった。

ボランティアアマインド

障害者理解

スポーツ志向

日本人としての自覚と誇り

豊かな国際感覚

環境